





学 年  
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (⑦こいのぼり ステップ2)

年 組 氏名

こいのぼり

1 いらかの波と 雲の波

かさなる波の なかぞらを

たちばなかおる 朝風に

高くおよぐや こいのぼり

2 ひらける広き その口に

舟をものまん さま見えて

ゆたかにふるう おひれには

ものに動ぜぬ すがたあり

○言葉の意味

いらか：…かわら  
たちばな：…ミカン科の樹木

「こいのぼり」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましよう。

「こいのぼり 鑑賞文の一例」

○どの行も、七音と五音の組み合わせになっています。

○「波」「およぐ」「船」などの言葉が使われていて、空を水の中と見立てています。

そのほか

・「こいのぼりが空をおよぐ様子を想像しながら、鑑賞文を書いてみましょう。」

・「こいのぼり」は、五年生で習う曲です。音楽の授業では、このワークシートで書いたことを思い浮かべながら、歌詞を読んだり、歌ったりしてみましょう。

・「こいのぼり」には、この曲以外にも、「屋根より高いこいのぼり 大きいまこいはおとうさん……」で始まるものもあります。二つの歌詞のちがいを比べてみよう。





学 年  
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (⑧赤とんぼ ステップ2)

年 組 氏名

「赤とんぼ」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

赤とんぼ 作詞 三木露風

夕やけこやけの 赤とんぼ  
負われて見たのは いつの日か

山の畑の くわの実を

こかごにつんだは まぼろしか

十五でねえやは よめに行き

お里のたよりも たえはてた

夕やけこやけの 赤とんぼ

とまっているよ さおの先

○言葉の意味

負われて：…せおわれて

こかご：…小さなこご

たえはてた：…すっかりたえる。おしまいになる

- ・くりかえされていることばは何だろう。
- ・この歌詞は、むかしのことを思い出している内容になっているよ。どんなことを思い出しているのだろう。

--	--	--	--	--	--	--	--

学 年  
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (⑧赤とんぼ ステップ2)

年 組 氏名

「赤とんぼ」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

赤とんぼ 作詞 三木露風

夕やけこやけの 赤とんぼ  
負われて見たのは いつの日か

山の畑の くわの実を

こかごにつんだは まぼろしか

十五でねえやは よめに行き

お里のたよりも たえはてた

夕やけこやけの 赤とんぼ

とまっているよ さおの先

○言葉の意味

負われて：…せおわれて

こかご：…小さなこ

たえはてた：…すっかりたえる。おしまいになる

〔赤とんぼ 鑑賞文の一例〕

○一番と四番に「夕やけこやけの赤とんぼ」という歌詞がくりかえ

されています。

○一番から三番の歌詞は、作者が昔のことを思い出している内容に

なっています。四番の歌詞は、今、赤とんぼがさおの先にとまって

いる様子を表しています。

そのほか

・ふるさとのことを思い出しながらよんだ作者の気持ちなどを想像

しながら、鑑賞文を書いてみましょう。

「赤とんぼ」は、昔からよく歌われてきた日本の童

謡です。みなさんも小さいころに歌ったことがあるで

しょう。ワークシートで書いたことを思い浮かべなが

ら、歌詞を読んだり歌ったりしてみましよう。









学 年  
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (⑨やしの実 ステップ2)

年 組 氏名

やしの実 作詞 島崎藤村 しまざきとうせん

名も知らぬ 遠き島より  
流れよる やしの実ひとつ  
ふるさとの 岸をはなれて  
なれはそも 波にいく月

もとの樹は 生いやしげれる  
枝はなお かげをよなせる  
われもまた なぎさをまくら  
ひとり身のうきねの旅ぞ

実をとりて むねにあつれば  
新たなり りゆうりのうれい  
海の日が しずむを見れば  
たぎり落つ いきよのなみだ  
思いやる やえのしおじお  
いずれの日にか 国に帰らん

○言葉の意味  
なれ：おまえ そも：いったい  
なせる：作る まくら：まくらにして寝る  
りゆうり：さすらいのこと  
帰らん：帰ろう

「やしの実」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましよう。

「やしの実 鑑賞文の一例」

○最後の一行以外は、五音と七音の組み合わせになっています。  
○作者は、「やしの実」と自分とを重ね合わせてこの詩をよんでいます。

そのほか

・ふるさどに対する作者の思いを想像しながら、鑑賞文を書いてみましょう。

「やしの実」は、昔からよく歌われてきた日本の名曲です。CDなどで曲をきいて、ワークシートで書いたことを思い浮かべながら、歌詞を読んだり歌ったりしましょう。







学 年  
中・高

# 歌詞の鑑賞文を書こう (⑩花 ステップ2)

年 組 氏名

花 作詞 武島羽衣

春のうららの 隅田川 すみだがわ

のぼりくだりの 船人が ふなびと

櫂のしずくも 花と散る かい

ながめを何に たとうべき

見ずやあけぼの 露あびて つゆ

われにも言う 桜木を さくらぎ

見ずや夕ぐれ 手をのべて

われさしまねく 青柳を あおやぎ

※この後の歌詞は省略しています。

「花」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

## 〔花 鑑賞文の一例〕

○どの行も、七音と五音の組み合わせになっています。

○二連目では、「見ずや」「われ」という言葉がくりかえし使われています。

○題名の「花」という言葉は、一番で一回だけ使われています。

そのほか

・二連目では、前半の二行と、後半の二行が対比的に描かれています。

・「桜木」と「青柳」を擬人法を使って表現しています。

### ○言葉の意味

うららら…空が晴れておだやかなようす

櫂…水をかいて船をすすめる平たい板 かい

たとうべき…例えるべきだろうか

あけぼの…明け方

青柳…青々としげったやなぎ

「花」は、昔からよく歌われてきた日本の名曲です。CDなどで曲をきいて、ワークシートで書いたことを思い浮かべながら歌詞を読んだり、歌ったりしてみましょう。







学 年  
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (⑪浜辺の歌 ステップ2)

年 組 氏名

浜辺の歌

作詞 林 古溪

あした浜辺を さまよえば  
 昔のことぞ しのぼるる  
 風の音よ 雲のさまよ  
 よする波も 貝の色も  
 タベ浜辺を もとおれば  
 昔のことぞ しのぼるる  
 よする波よ 返す波よ  
 月の色も 星のかけも

○言葉の意味

あした・・・今朝  
 よする波・・・寄せる波  
 タベ・・・夕ぐれ時に  
 もとおれば・・・歩き回ったら

「浜辺の歌」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましよう。

〔浜辺の歌 鑑賞文の一例〕

○前半の二行は、七音と五音の組み合わせで、後半の二行は、六音と六音の組み合わせになっています。

○一番、二番の両方に、「昔のことぞしのぼるる」の歌詞が出てきます。

そのほか

・浜辺の情景、空や海の波の様子などを想像してみましょう。

「浜辺の歌」は、昔からよく歌われてきた日本の唱歌です。CDなどで曲をきいて、ワークシートで書いたことを思い浮かべながら、歌詞を読んだり歌ったりしてみましょう。







学 年  
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (⑫早春賦 ステップ2)

年 組 氏名

「早春賦」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましよう。

早春賦 そうしゅんぷ  
作詞 吉丸一昌

春は名のみ 風の寒さや

谷の鶯 うぐいす 歌は思えど

時にあらずと 声も立てず

時にあらずと 声も立てず

氷とけ去り 葦 あし はつのがむ

さては時ぞと 思うあやにく

今日もきのうも 雪の空

今日もきのうも 雪の空

○言葉の意味

名のみ：名ばかりの 思えど：思ったが  
時にあらず：まだその時が来ていない  
葦：植物の名 つのがむ：芽が出る  
さては時ぞ：さあ春がきた  
あやにく：あいにく

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

・くりかえされていることばは何だろう。  
・それぞれの行は、何音と何音の組み合わせになっているだろう。  
・春の情景をあらわす言葉はどこにつかわれているだろう。

学 年  
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (⑫早春賦 ステップ2)

年 組 氏名

「早春賦」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましよう。

早春賦 そうしゆんぷ 作詞 吉丸一昌

春は名のみ 風の寒さや  
谷の鶯 うぐいす 歌は思えど  
時にあらずと 声も立てず  
時にあらずと 声も立てず  
氷とけ去り 葦 あしはつのがむ  
さては時ぞと 思うあやにく  
今日もきのうも 雪の空  
今日もきのうも 雪の空

○言葉の意味  
名のみ：名ばかりの 思えど：思ったが  
時にあらず：まだその時が来ていない  
葦：植物の名 つのがむ：芽が出る  
さては時ぞ：さあ春がきた  
あやにく：あいにく

〔早春賦 鑑賞文の一例〕

〇どの行も、七音と七音（二番の後半の「雪の空」のみ五音）の組み合わせ  
になっています。

〇「時にあらずと声も立てず」と「今日もきのうも雪の空」が二回くり返さ  
れています。

そのほか

・冬から春に季節が移り変わる情景や、春を待つ人々の気持ちなどを想  
像しながら、鑑賞文を書いてみましょう。

「早春賦」は、昔からよく歌われてきた日本の唱歌  
です。CDなどで曲をきいて、ワークシートで書いた  
ことを思い浮かべながら、歌詞を読んだり歌ったり  
してみましょう。

